

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 住民の不安に寄り添う原発行政を	7月29日に県や石巻市と同様に本町も乾式貯蔵施設の設置計画を了承しました。町長が「一時保管であり、しっかり搬出を」と強く要請したことについて
	では同様の思いです。しかし、使用済燃料の保管期限や敷地外搬出に関するロードマップの作成等の条件が付けられなかったことに、将来への不安が残ります。
	(1) 東北電力の阿部正信原子力部長が「この施設は一時的な貯蔵施設であり、責任を持ち敷地外へ搬出します」と話していましたが、いつまでに、どこへ搬出するとの説明だったのか。青森県六ヶ所村の核燃料再処理工場は、昨年8月に
	完成時期を2026年度末に延期しており、これで27回目の延期となりました。当初の完成予定から28年も遅れており、本当に稼働できるのか見通しが立っていないと思います。どのような根拠で搬出に責任を持っていると説明を受けたのか伺います。
	(2) 国には19,000トンの使用済燃料があると言われています。年間800トンと言われる処理能力では、19,000トン全量を再処理するには、単純

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	に23年9か月を要します。また、現在稼働している原発で新たに排出される使用済燃料の処理を加えれば、さらに時間を要します。
	女川原発だけではなく、全国的にも使用済燃料の保管が問題になっています。六ヶ所村再処理工場での女川原発使用済燃料再処理枠は確保されているのですか。確保されている場合、年間何体、何トン搬出される予定と事業者から説明を受けているのか伺います。
	(3) 玄海原発で敷地内にドローンが3機侵入する事案が発生しました。(後に「ドローンと思われる3つの光」と訂正) ドローン技術は日々発達しています。ロシアのウクライナ侵攻においても、チョルノービリ原発がドローン攻撃を受けたとの事例もあり、今までとは違う脅威も想定しなくてはなくなりました。
	現在、女川原発では、特重施設も完成しておらず無防備な状況にあると思いますが、どのような対策を講じている、また、講じる予定との説明を受けているのか伺います。
	(質問の相手：町長、担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 加 齢 性 難 聴 に 問 題 意 識 を	2年ごとに加齢性難聴の問題を提起しており、今回で3回目となります。加齢性難聴は、加齢に伴って音を感じる細胞が減少することで、聴力が低下する障害です。40歳代から始まり、75歳以上では約半数がこの症状に悩まされているといわれます。
	このような難聴の影響により、日常での危険性の察知や人とのコミュニケーションがうまく図れないことで、孤立やうつ症状、認知症の発症リスクを大きくするとも言われています。
	(1) 加齢に伴う生活上の必要に関する状況把握をするとのことでしたが、加齢性難聴によって支障を来している方は、この2年でどのように変化しましたか。
	(2) 補聴器は、いまだに高価で平均でも20万円程度の価格になります。本町でも身体障害者手帳の交付を受けた方が購入する際には経費が一部支給されていますが、健常者で加齢性難聴の方に対する補助はありません。日本補聴器工業会の調査によると、難聴の不自由さを感じているのは、本人よりも家族の方が強いと報告されています。穏やかに生活するうえで、補聴器、集

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	音機の利用は効果的であり、それに伴い高価な
	機器に対する助成は重要です。宮城県内では、
	東松島市等の5自治体が、65歳以上の身体障害
	者手帳が交付されていない方への補聴器購入補
	助を行っております。女川町でも補聴器、集音
	機購入補助制度を創設してはどうか、見解を伺
	います。
	(3) 役場でも、聞き取りが難しい方に対して、繰
	り返し説明する等の対応をする場合もあると思
	います。また、耳が聞こえづらいと、お互いの
	声も大きくなり個人情報周囲に知られる、他
	の方の迷惑になることなどが懸念されますが、
	高齢者や耳が聞こえづらい方への対応はどのよ
	うにしていますか。一昨年くらいから窓口業務
	に軟骨伝導イヤホンを導入している自治体や企
	業も出てきているようです。本町でも検討され
	ては。
	(質問の相手：町長、担当課長)